

令和 3 年度第 2 回市川町総合戦略会議録

会議名	第 2 回市川町総合戦略会議
開催日時	令和 4 年 3 月 3 日(木) 15 時 00 分～17 時 05 分
開催場所	市川町役場 4 階 相談室
出席者	委員：小野康裕（委員長）、前田盛雄（副委員長）、法田尚己、村上和男、北尾政憲、長尾克洋、楠田一利、岩木和子、木村重己、澤田克彦、吉本晃司、村田敏朗 町：岩見町長、藤原副町長、内藤企画政策課長、近藤地域振興課長、藤後課長補佐、柴田主事
会議の議題	1 開会 2 あいさつ 3 協議 （１）令和 3 年度実施事業進捗状況及び令和 4 年度事業計画について （２）令和 4 年度の変更事業について（事業番号 3, 4, 16） 4 閉会
会議資料	【事前配布分】 ・会議次第 ・市川町総合戦略進捗管理シート ・新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金事業実施計画 【当日配布分】 ・令和 3 年度総合戦略会議委員名簿 ・座席表 ・チラシ（ゴルフまつり他）
協議 事務局	3 協議 （１）令和 3 年度実施事業進捗状況及び令和 4 年度事業計画について ・国勢調査結果について説明 ・事業をピックアップして進捗状況、変更点などを説明 （２）令和 4 年度の変更事業について（事業番号 3, 4, 16）
地域振興課長	<u>3 ゴルフを主軸としたイベントの開催</u> ゴルフを主軸としたイベントとしてゴルフまつりを開催していたが、昨年度は新型コロナによって中止。今年度は、当初 4 月 17 日に予定していたが新型コロナによりシルバーウィークに延期。内容を変えて、1 ヶ所にお客様に集まっていただくのではなく、分散したサテライト方式でのゴルフまつりを計画していたが、それも新型コロナにより中止。その後ゴルフまつり運営委員会で検討した結果、この大規模なイベントはしばらく休止という結論になった。ゴルフアイアンヘッドが市川町発祥ということは、十分に周知されてきたことだと思っている。しかしながら、このクラブを実際に手に取って打ったことのある方がほとんどいない。やはりいいものを作っても、知ってもらわないと意味がないということで、実際に打っていただくという方向に転

地域振興課長	換し、ゴルフイベントについては、基本的に町内の小学生たちに、地元のアイアンを体験してもらうということにして今年度から行ってきた。これまでのイベントに関する費用、時間、労力を考えると費用対効果がとても小さい。1年間かけて準備して開催しても1,000人足らずで、方向性を変えていくこととし、子どもたちの体験であるとか、移動式の情報発信拠点を整備したうえでの発信をしていこうとしている。今までPRできていなかったところへ発信していき、何年後になるか分からないが、ゴルフまつりを再開できたらいいなと思っている。 <u>4 町、商工会、地元金融機関の連携強化による創業支援事業</u> 当日配布資料の4ページをご覧くださいと、平成27年に計画を作成し、平成30年度で一旦終了、そこから延長して令和5年度までの計画となっている。実績の一覧を見ていただくと、この6年間で創業者数は10人、うち補助金の活用は9件。まずこの事業の内容としては、創業希望者に対するセミナーの実施、個別相談の実施、補助金の交付との三本立てとなっている。このうち見直しを考えているのはセミナーと補助金で、セミナーも補助金の交付についても廃止したいと考えている。令和3年度は補助金の申請もセミナーの参加もゼロだった。市川町は商売に向いていない地域だと思っている。近隣の福崎町や神河町と比べても商工業関係が少なく、道路事情などいろんなことが要因としてあると思う。それよりも、現在の商工会会員の40%の方が、事業の後継者が決まっていない状況なので、創業については県や国の事業の活用を進めていくこととし、一旦町の補助金については廃止したい。実績の中でも、実際に活動しているのかどうか分からない事業所も半分近くある。そのため、事業効果も乏しいと思われ、このような変更を考えている。 <u>16 引っ越し支援事業から空き家片付け支援事業への変更</u>
事務局	事業を変更する理由としては、空き家を購入したい方にとって、家財道具が多く残されていることが障壁となるケースが多く、中には断念される場合もあるということ、ホームページの写真の見栄えがいいということと、片づいている方がやはり売れやすいということ。また購入の話が出た際に、どちらが片付けるのかという話が出ることもあり、スムーズな売買につなげていくためということもある。他の市町に聞くと、引っ越し支援はこれがあるから引っ越ししようというインセンティブは働かないけれども、空き家の片付け支援については、住民の方に喜ばれるし、空き家バンクの登録に繋がっているという話をしていた。金額については、平屋の2LKの家で処分費が6万円ほど聞いており、それを参考に設定した。
委員長 委員	以上説明の内容について、皆さんの方から令和4年度に向けての変更点3つ、3番、4番16番についてのご質問、ご意見から伺ってまいりたい。 創業支援で、新しい事業ができて、学校を卒業したら市川町で働くという構図に持っていけたらと思うが、状況を聞くと廃止をされるということ。商工会会員の40%が後継者や事業継続に悩んでおられるということなので、今ある事業者をさらに支援するというような対策が必要ではないかと思う。

地域振興課長	市川町では新しい起業はもともと少なく、雇用を生むような会社が立ち上がれば嬉しいが、一覧の10件も新たに雇用が生まれるような会社ではない。事業継承するために、今ある事業所が拡大しようとするときに補助するようなことを今後考えていきたいと思い、この創業支援については一旦打ち切りをさせていただく。新しい事業はまだ固まっていないため、来年度中に事業拡大、事業継承などの補助メニューを考えていきたいと思っている。
委員	商工会としては、先ほど言われたように約半分の事業所で跡継ぎがいないというような状況。従業員に跡継ぎをしてもらうのはどうかというと、それも非常に難しく、商工会事務局にはそういった事業所のサポートをお願いしているが、今のところ解決案はなく困っている。
委員長	創業支援は非常に難しい。二つの問題点として、創業の規模が小さいということと、本当に実態があるのかどうかということがある。また今問題となっている約40%の事業所で後継者がいないということは、市川町の商工会の産業的構造の問題で、1人親方の会員が多いため、高齢化に伴う廃業が今後相当見込まれる。つまり雇用形態でやっている企業が非常に限られてしまっている。商工会の青年部のメンバーたちがどう業態を変更していき、今後も頑張っていけるのかというようなところの支援が、これから求められるのではないかと思います。前にも言ったが、大阪府では南海電鉄が単独で後継ぎ支援ということで中小企業の支援を積極的にされている。なぜかと言うと、沿線の企業がなくなると自社の乗車率、売り上げに直接響くからであって、後継ぎをどう育てていき業態変更するか、カリスマ講師を活用し、他府県の業者とどうつながって新しい仕事とつながるのか、人と人あるいは異業種がつながる中で新しい仕事生まれないかという発想展開をされている。わが町にしても、小さいながらも外の事業者とつなげていき、そこにヒントを見いだしてもらえるかどうか、これから相当注力する必要があるのではないかと。小さな事業者が多いので、親父・息子の関係ではなかなか息子から親父に言いにくいことが多いが、自分の将来を見いだすかという力をつけさせるような事業は是非とも考えてもらいたい。跡継ぎというカテゴリーの捉え方は、創業よりも非常に大事なことになるのではないかと。
委員	他の市町では創業支援を廃止するという動きはまだない。創業という形でいろんな支援をするというのはあると思うが、創業されるまでに補助するのではなく、創業された後の軌道に乗せるまでの間の補助というような形に転換するということであれば、この代わりでいけるのではないかと思います。成功する率が極端に低いということは、私どももよく分かっているし、創業された後のフォローやモニタリングをしていくことによって、経営者に対してその継続の意識づけというようなことをしていかなければいけないと思う。ただ市川町は、創業の数も相談も極端に少ないということなので、それは致し方がないのではないかと考えている。
地域振興課長	町のセミナーと補助金は取り止め、個別相談については引き続き行っていく。前回村上さんの方から、創業はなかなかうまくいかない、10件あれば1件うまくいくかどうか、という話もあったが、そういったことから違う形のサポート

委員長	を考えている。 商業系の創業支援はなかなか厳しいが、実態を見ると農業の創業はますます成り立っていると言えると思う。市川町の実態そのものが農業に軸足を置いた産業構造になっている可能性が高いとも読めるが、その辺の考えは？
地域振興課長	農業は新規就農者がここ数年で6名。大半が上牛尾の牛尾さんのところでの就農だが、川辺地区でも若い方が2人就農されている。イチゴやバジルをされており、町としても広げていきたいと思う。農業で儲けて食べていくのは難しいが、バジルに関してはこれからまだ広がりがあると思うので、そういったところも今後も支援していきたい。
委員	農業も後継者不足が現実化しており、特に現在は肥料や農薬の価格高騰によりかなり経営が厳しい状態。悪条件の中で地域の農業者が農業離れするのがこわい。高齢化に伴う営農組合の存続が明らかに危うくなってきており、新規就農者や認定農業者の若返りをもっと図るべきだと考える。簡単に認定するのではなく、5年後10年後も必ず継続してもらおうということで補助することが大切ではないか。我々は今農地を預かっているが、一番大変なのは草刈と水管理。水路とかインフラ整備をもう少し考えていただかないと、農地自体を預かることもできない状態になっているので、新規も大事だが後継者のためにも、そういうことも考えてもらいたい。
委員長	変更点の3つの項目について重点的に意見をちょうだいしたい。後で先ほどの話が絡んでくると思うが、4番について他にご意見は？特にないか。3番のゴルフまつりのところは？トラックができ上がるまでは、何もないということになってくるが。
地域振興課長	何もないことはない。ゴルフまつりを町内4小学校でのゴルフ体験などに変更し、またイベント等も考えている。イオン加西での試打体験とか、中播磨地区のスポーツ振興委員会の研究会でリフレッシュパークのシミュレーションを利用していただくとか、交流を持っている岐阜県中津川市のふるさと自慢まつり、そういったところでアピールしていこうと思っている。移動式のシミュレーション（弾道計測器）を3セット、リフレッシュパーク市川には本格的なシミュレーションを導入しており、それらを活用して、このゴルフまつりの形を変えてしていきたいと思っている。また、移動式の情報発信拠点が完成すれば、どんどん県外にも出て行き、そういった催しを行いたい。
委員	昔からゴルフアイアン発祥の地ということで、スナッグゴルフというものがある。スティックとボールを商工会から全ての小学校に提供したが、商工会が言っても、なかなか学校では活用してもらえない。20番のふるさとの意識に関連して、アイアンの体験を学校でした、とあるが、小さい子どもはプラスチックの操作しやすいもので体験し、市川町はこういうことを頑張っているという認識を持たせるのもいいのではないか。川辺地区だけはスナッグゴルフの大会をされている。教育委員会から言えるのかどうか分からないが、地域の活性化のためにスナッグゴルフも授業の一部として体験していただいたらと思う。

副町長	学校でのスナッグゴルフについては、指導員がいないというのが現状。川辺校区でされているような課外活動の形で、各小学校へ広まっていけばと思うが、いずれにしる指導者がいないのがネックになっている。提供いただいたときには、西日本スナッグゴルフ協会がゴルフ場でコースを貸し切って大会をされた。それがずっと続いていけば普及したと思うが、ゴルフ場を貸し切るのは非常に難しい。指導者の問題、運営の仕方についても考えていきたいが、これは教育委員会と十分相談しなければ実施に踏み切られないと思うので、そういうことで努力して参りたいと思う。
委員	商工会の職員はスナッグゴルフのことは結構知っている。協力いただけたら私の方からも声掛けする。
副町長	教育委員会とも十分相談はしたいと思っている。
委員	ゴルフに関して、市川町の総合戦略上の事業の考え方が分からない。小学校のゴルフ体験は、私もニュースやサンテレビで拝見していいことだと思っていた。まず聞きたいのが、これはふるさと意識の醸成・教育事業としてされているのか、それとも市川町のアイアンをこれから町内の人知らしめたいということとされているのか、あるいはこれからアイアンのこういう事業の裾野を全国的に広げるために、外の人を呼び込むためにされたいのか、その目的がよく分からない。小学生にゴルフ体験をさせるということとどまる発想なのか。市川町のゴルフを地域の資源として、戦略品として、観光産業振興の材料として取り組むという方針が、この戦略の主な事業の中に出てきてないのが不思議。まず基本的な考え方を教えてほしい。
地域振興課長	ふるさと意識醸成もアイアンを全国に周知したいということも、すべて盛り込んでいる。市川町といえばアイアンヘッド、いい物を作っても知ってもらわなければ意味がない。今回事業所が集まって子ども用のクラブも作っていただいているので、ふるさと意識醸成的なこともしていきたい。また、アイアン発祥の地ということも、県内にとどまらず全国に周知していきたい。ふるさと納税を伸ばしていきたいという思いもあり、すべての思いがあつての体験学習。
委員	ただ全部そういうふうに括ってしまうと、一体何のために、誰をターゲットに、どういうふうにして、いつ何をどこでしていくか、それがすべてばやけてしまって、一体何のためにしているのか人によって解釈が違ってしまう。全部大事で否定するわけではないが、こういうK P Iを設定するにあたっては、どういう方々に対して、どのような目的を持って、いつまでにどれくらいの資本を投下していくのか考える必要がある。費用対効果が低いとおっしゃったが、まさにそういうこと。例えば、三木市であれば、一番ゴルフ場の多いところだから学校の授業としてゴルフをする、子どもたちを連れて行くとゴルフ場が無料にしてくれる。また、金物の町なので、金物産業振興にどういうふう費用をかけて後継者を確保していくか、というふうにすると、一つのテーマに対して、担当者がどんな目的でしているのかが見えて、分かりやすいのではないかと。実は、ゴルフに関連した事業をもう少しされているのかと思っていたのだが、ふるさと意識の醸成としてされているということ

地域振興課長	で違和感があった。産業振興的なことでされているのかなと思っていた。何を申し上げたいかというと、3番の事業として、町のPRと特産品の販路拡大及び地域ブランド力強化の推進として質問させていただいた方がいいのか、ゴルフを主軸としたイベントの開催そのものの意見を求められたのか、どちらでもいいのか。そうなったときに、この事業が主な事業になっていたが、これだけしかなかったのかと思った。集客イベントはどここの団体でもされているが、県の経験の反省から申し上げますと、イベントをホームページに掲載して全国にPRしているが、来るのは関係者と近所の人たちで、それを10年続けているが成果が上がらない、という話。だんだん手段が目的化していつているのではないか。最初の説明を伺って思うのは、関係者の方々が来るイベントとしてするのであれば続けられたらいいと思うが、町のPRを町民にされたいのか、今まで知らない人にどんどんどんどんPRされていききたいのか、一度割り切られた方がいいのではないか。イベントの開催予定がなくなり、代替事業として子どもの教育関連事業に代えられていたので、観光産業事業としてはやめられたのかと思った。結論から言うと、大規模集客イベントは考え直された方がいい時期かもしれない。 とある地元新聞の方との話で、今ゴルフに最もお金を払う人が誰なのか。高齢者の方もいいクラブ持っておられるが、おそらく高校生・中学生で親が熱心な家は、子どもに練習させるということに関して、時間やお金を惜しむことなく使う方々が全国的に非常に多い。そういう方々をターゲットにすれば、ゴルフツーリズム的に、市川町にあれば子どものアイアンも打たせてもらえとか、鍛造のアイアンで練習すれば腕が上がるというような期待感を持たせるとかすれば、将来のお客さんを取り込むという意味でもいいのではないか。また、アイアン縛りの小学生のジュニアゴルフイベント全国大会といったものを実施するなど、全国初めてというイベントをしてはどうか。アイアン発祥の地だから初アイアン縛りで全国大会をするというようなアピールをするように持っていく、ゴルフツーリズムとして発展させられる方がいいのではないかと思った。ゴルフを主軸としたイベントの開催予定がないという状況であれば、1年間かけてそういう検討をされたらどうか。 市川ゴルフでは、アイアンを無料で貸し出ししている。子ども用のクラブも作っているので、それを貸し出ししている。そういうことも含め、小学生の体験であるとか、いろんなところから発信している。大規模イベントは当分の間は見合わせる。悪い言い方をすれば、例えば魚がいない所で釣り針を降ろしても魚が釣れない、餌もつけないといけない。餌をつけたからといって魚が釣れるものでもない。撒き餌をしないと駄目。そういったことで、移動式の情報発信拠点を整備している。本来であれば今年度箱物を観光交流センターの前に増築し、情報発信拠点を建築する予定だったが、予算的な事情、コロナ禍など、様々な要因により断念した。市川町に来ていただくのではなく、市川町から人が集まっている所へ出向いていこうという考えでの移動式の情報発信拠点到来年度から取り組む。例えば、ゴルフトーナメント会場に
--------	---

委員	行けばゴルフをしている人ばかりなのでターゲットを絞り込んでいける。イベントを含め、いろんなところに出向いていくこと方向に切り換えている。その事業はそれでされたいと思う。それとは別で、特にお金と手間がかかるほどでもないと思うので、アイアン発祥の町ということを逆手に取ったイベントで、全国的にマスコミを使っておもしろおかしく打ち出してはどうか。打って出る方法として、町内から順番にという方法ではなく、いきなり全国に打って出る方法があるのではないか。市川町がもともと持っておられる資源と世の中の雰囲気、時流に乗った形の打ち出し方をすると、以外に手間をかけずに全国に打ち出すことができ、関心のある方々やゴルフメーカーなどを通じて、多くの人に関心をもってもらえるのではないか。1度でもテレビの全国ネットで取り上げられたら勝ちなので。 それからもう1点、私事になるが、姫路ゴルフ協会の相談役になっており、スナッグゴルフの担当になった。何かあれば私も姫路で協力するのでよろしくお願いしたい。
委員長	前も言ったが、文化センターの辺りに、市川町へ来たら、ゴルフアイアン発祥の町に行ってきたという写真の撮れる場所を是非とも作ってもらいたい。この辺も今の時流に合ったものを是非とも考えてもらいたいと思う。
委員	郵便局の局長ばかりの中で話をしたときに話が出たが、三木市と市川町でコラボするようなことはできないのか。
地域振興課長	三木市については、ゴルフまつりを開催したときは三木市からも来ていただき、こちらからも三木市のイベントに行き、いろんな繋がりを持っている。先月三木市に行ったときに、市川町で情報発信拠点としてこういうものを作っている、これができたら三木市でトーナメントがあるときに出展させてもらえないか聞くと、是非どうぞということだった。今考えているのは、春の中学生とか高校生のゴルフ大会。また、三木市のレディーストーナメントにも来てもらえたらありがたいといったお話をいただいているので、三木市との繋がりを持っている。
副委員長	ゴルフクラブのことを一生懸命発信されているが、落合橋南側の市川の土手に立っているゴルフアイアンの宣伝をする看板が非常にみすばらしいです。あれは直していただきたい。ゴルフを押すのであれば、ああいったものはきれいにしていただきたい。それから、役場の南の方にライオンズクラブが建てられた看板があるが、その足元が草まみれ。ゴルフのことを宣伝されるのであれば、下に人工芝を張って、ひまりんがTショットを打って、少し離れたところにカップを切って旗を立てていただくというようなことをしたら美しく映るような気がする。その辺また考えてほしい。 それからもう1点、ゴルフをしていた頃、ショートホールを回ったときに、「このボール打ってもらえないか」と言われ、500円払ってそれがワンオンすれば商品をもたらえる、というようなことを何回か経験した。例えばゴルフボールをアイアンに変えて、市川町のアイアンを並べておいて、このアイアンで打ってワンオンしたら景品を渡す、というような方法で、直にゴルフク

地域振興課長	ブを振ってもらうということをされても、クラブの宣伝になるのではないかなと思う。 まず、文化センターでインスタ映えする所という話については、今年度試打できる場所を整備している。また副委員長からのお話については、ホールインワンチャレンジ、ドラム缶インワンチャレンジなどを実施し、入れば景品と交換というイベントもしてきたが、商品を出しても人に見られているところではなかなか参加してくれなかった。それが定着することによって、お客様も慣れて増えてくるかもしれないが、今のところ実施については検討中。そういったイベントも今後また再度見直していきたいと思う。
委員長	他にゴルフの関係はよろしいか。 16 番の空き家の片付けについてはどうか。特にないか。 続いて、令和 3 年度の実施事業進捗状況と 4 年度の事業目標全体のところで、ご意見ご質問をいただきたい。
委員	他の小さい町で、耕作放棄地をメインに小麦を作って、パンのまちづくりをしたいという方向性を持ってしている人があった。実際のところ、米だけでは食べていけない状況。麦なら麦でパンに向けた麦を作って、市川町単独のものを作ってはどうかと思う。 それと、私も市川町の給食センターに出しているが、市川町の野菜を市川町の人が食べることを考えてもらいたいと思う。子どもたちに安心安全なものを食べさせることによって、市川町に愛を持つようになるのではないかなと思うので、そういった面で何かいい方法を考えてほしい。 この間も地域振興課長から農業者に対しての補助的なことを考えていただき、本当に助かっている。やはりスマート農業に取り組んでいかないと、農業を守ることができないのが現実。市川町は山や田がほとんどなので、若い人がもう少し、市川町の農業を目指して、若い人が住みやすい、来てくれるような町になればと思う。
委員長	総合戦略を 7 年してきた中で、人口が予定よりもかなり減っているわけだが、これをどうやって食い止めていくか、今日は国勢調査の数字の報告もいただいた中で、この事業が一体どのように効果があったのか、なかったのかということも、そろそろ出していただく必要があると思う。行政なので、すべて網羅しておかないといけないことはよく分かるが、一体どれに重点を置いて今年度はやっているのか、来年度はやろうとしているのか全く見えない。農業の振興なのか、産業の振興なのか、ゴルフアイアンのまちなのか、もしくは子育てや教育、いろいろあると思うが、一体どれを市川町の誇りとして築いていく中で、市川町に住んでみよう、市川町に戻ってみようということを熟成できるのかということが、この会の一番の目的だと思うので、そういったところで、皆さんからも改めてご意見をいただきたい。
委員	先ほど地産地消の話があったが、給食センターからのメニューを見ると、安全安心な食材が生かされていると感じた。やはり市川町の農業をどのようにして継続させるのかということは、給食センターが地元にあるのだから、とても大事なことだと思う。このコロナ禍でも、こども園や子育て支援センタ

	一は、保護者の就労支援が大事だということで、休園措置を取らずに子どもたちを預かっておられる。特に支援センターは、人数制限と予約制にして預かっておられる。保護者にとっては、24 時間子どもと室内でいるということは、ストレスがたまって、今問題になっている虐待ということに繋がっていくので、予約制にしてでも何人かの親子を預かることが大事だというアドバイスもさせていただいた。少子化の点では、この 4 月からまた新年度がスタートするが、ある保護者の方に、今度一年生になるが近くに上級生がいないから、並んで連れて行ってもらうことができないということ。対策として、道路を渡って奥から出てくる登校班に入れてもらう、ということをお聞きし、少子化の現実を目の当たりにした。 通学路については、昨年千葉県の八街市で大変無残な交通事故があった。全国で各学校、地域で安全点検をされたところ、7 万 2000 件の安全ではない箇所が見つかったということで、もちろん市川町でも点検していただいたとは思いますが、再度 4 月からのスタートに向けて、子どもたちの安全確保に努めていただきたい。つい先日、朝 9 時過ぎ頃家の前で車の事故があり、これが通学の時間帯であれば大変なことだと思った。通学中に気をつける箇所を保護者と学校とで共有して、再度点検していただきたい。
委員長	子育て世代がどんどん減って、出て行く理由もいろいろあるが、学校教育の問題がかなりウエイトを占めているようなことを聞く。やはり学校教育、これは難しいところもあるが、ここをどうするかは相当知恵を絞っていかないといけないことだと思う。一番気になるのは、行政間の競争になっていっている、お金があるところのサービスが良くなるのは当然のことになってくる。その中で市川町の財政がどのような状況になっているのか、将来的にどんな予測を持っておられるのかということをお教えいただきたい。
副町長	子育て世代の支援については、医療費や保育料、給食費など市町間の競争のような形になっているのが現状。財源のことを考えるとなかなかついていけない部分もあるが、子育て世代に対する支援は、町長の一つの公約でもあるので重点を置いている。その効果がどこまで出ているのかということについては計り知れない部分は多い。それ以外に今年の予算の編成方針については、まず一つは新型コロナ。感染対策についての事業を一つの重点策にしているが、その次に子育てや若者の定住対策などの地方創生関連事業。それと安全安心に関して防災減災、これについても重点を置いている。それから市町業務のデジタル化にも重点を置いている。また市川町の場合、公共施設の老朽化が非常に激しいので、公共施設の管理計画を立てた上で、順次改修していかなければならず、これも一つの重点施策としている。同じく公共施設社会基盤インフラの関係から、道路橋梁も長寿命化に取り組んでいる。そうしていくと総花的に見えてしまうが、やはり項目としては様々な項目があって当然なので、その中で部分的に何に重点を置いていくのかということが大事であると思う。いずれにしても、子育て世代の支援ということには重点に置いているということで、皆様方のいろんなご意見もお伺いしながら、取り組んでいきたいと思っている。

委員長	過疎地指定になったということは、デメリットもあればメリットもあると思うが、どういうデメリットとメリットが想定できるのか。
町長	この4月から過疎地域に指定され、計画を立てなければならないということ。その中で、有利な財源を得て、それでもって事業が展開できるということで、皆様方のご意見も伺いながら計画を立てた上で、事業を進めていかなければならない。ただ、過疎対策の事業としては、初めてなので、またセンター長にもいろいろとご意見、ご指導もいただきながら進めていきたいと思っている。
委員	かつては過疎団体になると不名誉のような雰囲気があるのが一つデメリットだったが、人口が減っている中で過疎団体がどんどん増えてきており、そういう実害はあまりない。現状として、そういう地域になっているという認識を、町民の方と共有することがまず大事だと思う。市川町の財政状況の話があったが、現状だけ申し上げると、借金の比率を表す実質公債比率、兵庫県は18で高いと言われているが、10%程度で高くなく、借金苦の状況ではない。また、経常収支比率、いわゆる経常的な財政の膠着度（硬直度？）、福祉の経費とか人件費とかがどれほどあるのかという割合は88%程度。これもそれほど高い状態ではないので、硬直化（？）が進んでいるという状況ではない。ただ、規模の小さな団体なので、小学校の立て替えなどの大きな事業をすると一時的に負担が出てきて、急激に数字が動くという団体上の特性はあるが、基本的にはそれほど悪い状態ではない。個人的な感覚であるが、これまで過疎団体を拝見していると、子どもが少ないということは将来的に人口が減ることは確実なので、その中で過疎になった時が一番団体として元気。今この過疎になられるときに戦略的に計画を作って、それほど財政状況も悪くないので、7割国からの地方交付税で借金ができる過疎債というものを使ってほしい。これは議員立法で、役人が作ったものではなく国会議員の先生方が集まって、谷洋一先生がもともと主でされた制度であり、そういう意味で兵庫県はわりとたくさん取れると言われている。総花的にやるとどれも成果があまり出なくて、特徴も出ないということになりがちなので、地域のいろんな方々の思いやバランスもあると思うが、今の入口の時にこの地域を戦略的にどうしていくのか、思い切った戦略に打って出られる方がいいと思う。
副町長	実質公債比率等については、数字的には非常に良い数字であるが、これはなぜかという、これまでお金がないから大きな事業をしておらず、借金もしなかったということも一つ要因にあると、私は個人的には思っている。しかし、これまでしてこなかったということ自体、「しなかった」と「できなかった」という中にまた様々な理由もあるわけだが、今センター長がおっしゃったように、特徴あるような事業を打って出ないといけないとは思っているので、またいろいろとご指導をお願いしたい。
副委員長	私の村で空き家になっているところを、別の隣保の方の子どもさんがリフォームして住むというようなことが2件あった。お金があればひまわりコートを買ってもらえていいが、なかなか新たに土地を買って家を建てるのは負担

事務局	が大きいということで、まだまだ住める空き家を改修して住んで、村の中に残ってもらっている。今どんどん他の地区でも空き家が増えているが、行政が中に入って、リフォームするための補助金を出すとか、引っ越しの費用もそうだと思うが、そういう工夫をすれば地域に残っていただけるようにならないのかと思う。 今現在市川町では空き家活用支援事業をしており、空き家を直されたときに補助金を出している。県がされている事業に上乘せという形で実施しているが、県の制度が途中で変わり、耐震工事をしていないと補助対象にならなくなってから、この補助金が使いにくいものになってしまった。町単独でそういった条件を抜いたものを実施していくかどうか、また担当課と話をして検討していきたいと思う。
委員	ふるさと市川PR大使に「女と男」の市川さんと和田さんがなられて、この前大々的に委嘱式をされたが、こういうお笑い芸人が一つの自治体を拠点にして、何かイベントをしていこうということ自体が、この周辺自治体ではあまりないので、これはこれで一つのチャンスだと思う。空き家を買われて、ここを拠点にいろいろイベントをするというような話があったが、例えば市川さんに市川町のアイアンでゴルフの練習をしてもらい、それをメディアが追いかけるとか、あるいは市川町に引っ越してきた若い世代の子どもさんを持つ家族を訪問してもらい、その様子をメディアで発信してもらうとか、いろいろなPRの仕方が考えられると思う。すごい売れっ子というわけではないけれども、全くの無名というわけではない、ちょうどいい感じだと思う。大阪と市川町の2拠点になっていると思うが、大阪のメディアが関心を持てばこちらに来てくれることもあるだろうし、何かイベントをするときには私も含めて取材に行くことになる。子育て、人口減の抑制、ゴルフアイアンのPRなど、いろんな手伝ってもらい方があってと思うので、積極的に厚かましいくらい、連携していけばいいのではないかな。
企画政策課長	1月に協働プロジェクト協定を結び、吉本興業も3月からBSよしもとという放送局も開局して、そこで番組を作っていく。その中で地方創生を軸にした住みます芸人の活動とか、「女と男」の二人のプロジェクトも今後放送していきたいということで、それは吉本興業の方からの提案だが、こちらとしても、そういうメディアを通じてどんどん市川町のことをPRしていただけるというメリットはある。また市川町としても、イベントやPRしてもらいたいものがあればこちらからお願いして、PRしていきたいと思っている。市川町に空き家を購入されて、YouTubeで今までも何回か流れているが、市川町ってどんなところなのかとか、かなりコメントが入っている。このように興味を持たれる方も増えているので、「女と男」のYouTubeチャンネルについても、我々も応援していきたいと思っている。
副委員長	「女と男」の関係で、区長会の研修で話をさせていただき、その時に市川町を笑いの町にさせていただきたいというような提案をさせていただいたが、その後何か町の方で具体的な動きはないのか。

企画政策課長	まだ具体的には考えていないが、この前の区長会で提案があった笑いの町と、山城のハイキング、秋祭りへの参加、お笑い道場などについては、「女と男」の二人も乗り気で、やりますと言っていたので、その際は一緒にやっていきたいと思っている。
委員	農業の後継者の問題について、小さな営農組合がたくさんあるが、営農組合も年を取ってきて存亡の危機に陥っている状態。隣同士の小さな営農組合の合併、統合、そういう動きをしたほうがいいのではないかなと思う。
地域振興課長	営農組合の統合については、今市川町内全域で人・農地プランを立て終わったが、昨年度甘地地区で一つ営農組合がなくなった。今後も瀬加地区の方でなくなると聞いている。地域との話し合いの中で、統合についても役場の方から提案したが、どこもその気はなく、営農組合が減っていくだけになってしまっている。地域振興課としても考えていかなければならないと思うが、地域振興課として何ができるというよりも、やはり地域の話なので、あまり踏み込むこともできない。機械のシェアも提案するが、なかなかそれも難しいようで、担当課としても悩んでいるところ。
委員	難しいのはよく分かるが、将来なくなってしまうと困るので、何とか統合するような指導が必要ではないかなと思う。すぐ先に迫った問題なので、考えていかなければならない。
委員	行政の指導が一番大事。なかなか踏み込めない地域性もあると思うが、例えば甘地、小谷、奥、坂戸を考えると、奥は結構後継者がいるようなので今のところは安心だと思うが、坂戸は今生産組合という形でしており、村の人は誰も参画していない。一部の若い人が人を手配しながら農地の維持をしており、結局機械が買えない、修理もできないということになってくると、統合しないと大きな機械も手に入らない。農地管理機構に預けることによって、幾らかの補助があって、それをもとにいろんな事業の転換の話も出てくるが、そういうことも地域の方に教えないといけないと思う。農地を管理するだけでも大変な時代になっており、特に姫路管内では 35,000 円～40,000 円もらわないと農地をしないということで、地域全体が頭抱えている。そういうことにならないように、早め早めの施策を考えていくべき。特に甘地地区も、認定農業者として入られた方が高齢で、この後どうするのかというと、村自体がそれは誰かがするだろうという考え。農地は大規模になったけれども、5年後は誰がするのか？という問題に直面した場合に、地域全体として、合併するなり共同で作業するなりの方向性をもっと打ち出していくべきだと思う。
委員長	営農組合の合併の問題と、消防団組織の合併、再編の問題は非常によく似ていて、やはり行政の指導力が必要だろうと思う。例えばうちの商い、野菜の苗を量販店に卸す仕事では、ここ 3 年ほどで売り上げ本数は 7 割ほどに落ち込んできている。その原因は、団塊の世代が畑をやめて、次の世代にここ 3 年で一気に変わってきたこと。例えば団塊の世代の人は、ナスビを 10 本買っていたが、今の息子さんたちはナスビ一本しか買わない。ただし、60 円ほどの苗は買わずに 398 円のラベルのしっかりした、よく分からない新しいもの

委員	は買われる。だから利益率は保てるが量的には落ちてきている。今の団塊の世代が退かれて、次の世代に変わってきている現状を見ると、今の営農組合はあと5年もとても続かないだろうと思う。消防団についても、今後働き盛りの世代に消防団活動が今の状態のままの団員数を確保して、村ごとの消防団が維持できるのかというと、おそらくこれもまず無理。これは相当急いで行政が対策をとっていかないと間に合わないと思う。
	この6番のふるさと納税の推進について、市川町ではアイアンが一つの目玉になっているが、右の欄に書いてあるクラウドファンディングを活用した新たな返礼品の開発ということで、たまたま加西市を見ていると、新たに農業を始める若手農家を支援し、地域農業の次代を担う農業者を育成したい、というテーマで2000万の目標でクラウドファンディングをやっている。それで今、1110万集まっている。要はそういうテーマに合わせたクラウドファンディングで広く一般に寄附を募って、その寄附で事業を行い、返礼品プラス事業に参加できるものを加えるというような形でされたら、財源もある程度カバーできるのではないか。最近では福崎町が文殊荘のリニューアルオープンをして、その時のライトアップの費用をクラウドファンディングでしていたが、そういうこともされたいかかなと思う。
副委員長	最初の市川町の人口ビジョンの話で、国勢調査の結果が出て、神崎郡、加西市、朝来市の中で、残念ながら減少率が△15.5%、2057名の減ということでワースト1位になっている。神河が△13.6%で1673名、それから朝来が△11.7、加西が△11、福崎が△2.28ということで、福崎がここら辺では一番減少率が小さい。事務局の方でも、国勢調査の結果が出たので、どのような形でこの人口の増減になっているのかということはある程度可能な限り分析していただき、次の戦略に載せていただけたらと思う。減少するのは他の自治体もそうなので、その人口減をどう抑制するかというところにかかっていると思う。ぜひワーストから抜け出していきたい。
町長	37番の地域交流活動の促進に関連して、健康づくりということで村の中を朝晩散歩している方が多い。村の中を散歩するのに、何歩歩いたか分かるようなお散歩マップを作ろうと思い作り始めている。ドローンで鳥瞰図的に撮っていただいた写真を、道や主な建物だけ残していただき、30地区ある全部の自治会に補助してお散歩マップ作り、健康づくりを進めてはどうか。
副委員長	今のマップの件で、健康福祉課でウォーキングマップを4校区別には作られている。今言われているのは、集落ごとということだが、またドローンで撮った写真の希望があれば提供できる。
町長	いきなり外注してしまうのではなく、外の色付けなどは子ども会とか中学生がするというような方法もあると思う。そんな方法で作った方が地元には喜ばれるのかなという気はする。 それはまた個別に相談させてもらう。今日いろいろご意見をいただいた。その中で、センター長からゴルフのPR等で戦略が見えにくい、どこにどういう重きを置いているのかというご指摘もいただいた。私としては、市川町はゴルフクラブ発祥の地だと言いながら、なかなかそのPRができていなかったが、や

副委員長	っとここまで来た、という逆の思い。それぞれのクラブを作っていっしょなところはそれぞれの特徴を持っておられ、それをまとめるというのは大変難しかった。業者の方々もゴルフまつりを始めとして、現在では子どものクラブを協力して作り上げ、そしてそれを市川ゴルフで貸し出して、試打もできるようなところまできた。今度はそれらを使いながら、また試打設備も導入したので、これから次の段階へ進んでいくということで、今日いただいた意見は大いに今後の参考になると考えている。 何に重点を置いているのかという話があったが、私の思いとしては子育てと教育。一昨年から来年にかけては、中学校の統合に大きく予算をかけながら進めている。その前はこども園の建設、幼児教育に重点を置いていた。さらには、市川町が遅れている生活排水処理にも重点を置いてきた。限られた予算で、これからさらに何か重点的にするということになれば、今の予算の中で何かを削らなければならない。あれもこれもできないので、やはり切るべきものを切りながら重点化ということを考えていく必要があると考えている。また、農業の後継者不足の問題については、どこも大変な状況になってきている。先だつてある営農組合長が来られて、営農組合そのものの統合・合併を考える時期に来ているのではないかという提案もいただき、今日もそういう提案をいただいた。消防も4地区ほどに分けたものを考えざるをえないような状況になってきており、営農組合についてもそういうことを考えなければならない状況になってきていると、今日の提案は重く受け止めている。それから「女と男」については、昨日高島ちさ子さんの演奏会があり、そこにも市川くんが飛び入りで来て、掛け合いをしながら熱い思いで町のことも語ってくれた。これは大いに今後連携しながらやっていく必要があるかと思っている。 看板の問題は私も気になっているので考えていく。通学路は毎年点検をして、危険箇所等の洗い出しもしてくれている。子どもの事故があつては大変なことなので、これも点検をして直すべきところは直していかなければならない。 (閉会あいさつ) 4 閉会
-------------	--